

(1) 農業・水産業を振興する

- ① 農業の振興 ..... 86
- ② 水産業の振興 ..... 87

(2) 工業・地場産業を振興する

- ① 工業の振興 ..... 88
- ② 地場産業の振興 ..... 89

(3) 商業・観光を振興する

- ① 商業・サービス業の振興 ..... 90
- ② 観光の振興 ..... 91



### 3 活力とにぎわいのあるまち

#### (1) 農業・水産業を振興する

##### ① 農業の振興



###### 基本方針

市民の農業に対する理解や関心を深めるとともに、生産基盤の整備・保全や担い手の確保への支援などを通じて、経営安定化を促進することで、農業の持続的な発展をめざします。

###### 施策の方向性(現状と課題)

###### ● 生産基盤の整備・保全

農業従事者の高齢化が進む中、経営耕作地面積の減少や、イノシシなどの有害鳥獣による被害が拡大傾向にあるなど、農業従事者を取り巻く環境は厳しさを増しています。

そのため、本市の地域特性を踏まえた生産基盤の整備・保全を進めるとともに、有害鳥獣等による被害低減をめざした対策が重要です。

###### ● 農業経営の安定化

新規就農者の育成や営農組織の法人化などを支援することにより、担い手の確保や経営基盤の強化を図っているところですが、依然として、農業の担い手が不足しています。

そのため、引き続き、営農意欲の高い多様な担い手の育成・確保に向けた支援や特産品開発等を通じ、農業経営の安定化を図ることが求められています。

###### ● 農業を通じた地域の活性化

地産地消<sup>※</sup>に対する意識の高まりや、農産物のブランド化が進む中、本市においても、加古川和牛や加古川パスタ<sup>※</sup>をはじめとした特産品の情報発信に努めています。

また、施設の老朽化が進む見土呂フルーツパークについては、再整備を含めた施設の活性化を検討することで、今まで以上に、農業と豊かな自然に親しむ機会を市民に提供し、都市と農村の交流を図り、農業を通じた地域の活性化を促進することが求められています。

※SDGs該当項目:

- 2 飢餓をゼロに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 12 つくる責任つかう責任
- 15 陸の豊かさも守ろう
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

※地産地消:

地元でとれた生産物を地元で消費すること。

※加古川パスタ:

市内で栽培されるパスタ向け小麦品種「セトデュール」を使用した麺で、加古川市の地域ブランドの一つ。



見土呂フルーツパーク玉ねぎ収穫祭

## ② 水産業の振興



### 基本方針

水産資源の維持拡大を促進し、生産基盤の整備・保全を図るとともに、水産業経営の安定化を促し、水産業の持続的な発展をめざします。

### 施策の方向性(現状と課題)

#### ● 生産基盤の整備・保全

漁獲量が減少傾向にある中、水産資源の持続可能な活用を図るため、資源管理型漁業※への取組が求められています。

#### ● 水産業経営の安定化

漁業従事者の高齢化が進み、担い手が不足する中、燃料費や資材の高騰の影響もあり、漁業経営は不安定さを抱えています。

そのため、漁業従事者のニーズにあった効果的な事業の推進を図り、経営の安定化を図る必要があります。



海苔漁

### ※SDGs該当項目:

- 2 飢餓をゼロに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 12 つくる責任つかう責任
- 14 海の豊かさを守ろう
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

### ※資源管理型漁業:

漁業者が主体となって、地域や魚種ごとの資源状態に応じ、資源管理を行うとともに、漁獲物の付加価値向上や経営コストの低減などを図り、将来にわたって漁業経営の安定、発展をめざす漁業のこと。

## (2) 工業・地場産業を振興する

### ① 工業の振興



#### 基本方針

生産性や技術力の向上をはじめ、技術革新への対応や新事業への展開に関する支援などに取り組み、工業経営の安定化を促進するとともに、本市が持つ高い利便性を生かした企業立地の促進に努めることで、工業の持続的な発展をめざします。

#### 施策の方向性(現状と課題)

##### ● 工業経営の安定化

商工会議所などとの連携により、工業者の経営改善を支援する取組や工業振興推進に係る調査研究を実施していますが、IoT<sup>※</sup>やAIをはじめとした技術革新が進むなど、工業経営を取り巻く環境は変化しています。

そのような中、県・商工会議所等との連携による経営相談や指導等を通じ、変化する市場ニーズや技術革新に応じた事業展開を促進する必要があります。

##### ● 企業立地の促進

播磨臨海工業地帯の一翼を担い、広域道路網が整備されている本市は、産業用地としての高い利便性を備えていることから、多くのものづくり企業の創業・発展が進み、地域の経済発展を支えてきました。

しかしながら、近年、産業用地が不足しており、用地確保に向けたニーズも高まっています。そのため、産業用地の確保に向けた取組を進め、地域企業の事業拡大並びに新たな企業の立地を促進する必要があります。

#### ※SDGs該当項目:

- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 12 つくる責任つかう責任
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

#### ※IoT:

Internet of Things の略称。自動車、家電、ロボット、施設などあらゆるモノがインターネットにつながり、情報のやり取りをすることで、モノのデータ化やそれに基づく自動化等が進展し、新たな付加価値を生み出すもの。



播磨臨海工業地帯の一翼を担う市内臨海部の工場群

## ② 地場産業の振興



### 基本方針

経営の安定化に向けた取組を支援するとともに、独自の技術や技能を生かした新たな製品の開発や情報発信を促進することで、伝統的な地場産業<sup>※</sup>を維持・継承します。

### 施策の方向性(現状と課題)

#### ● 経営の安定化

靴下製造業、国包の建具をはじめとした本市の地場産業において、事業継承者が不足する中、新たな担い手の創出や経営の安定化を図るための支援が必要です。

#### ● 地場産業の活性化

消費者ニーズの多様化が進む中、ニーズを先取りした商品開発や新技術の導入による生産性の向上が求められています。

そのため、独自性を生かした高付加価値製品の開発に対する支援を行うとともに、SNS<sup>※</sup>等を通じた販売戦略の展開を促すなど、地場産業の活性化が重要です。



加古川産の靴下

#### ※SDGs該当項目:

- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 12 つくる責任つかう責任
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

#### ※地場産業:

ある特定地域において存在する伝統的な工業のこと。具体的には、地元資本をベースとする中小企業が一定の地域(おおむね県内)に集積しつつ、地域内に産出する物産等を主原料とし、または集積された経営資源(技術、労働力、資本等)を活用して他地域から原材料を移入し、これを加工するとともに、その製品の販路として、地域内のみならず地域外にも指向するもの。

#### ※SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス):

Social Networking Serviceの略称。登録された利用者同士が交流できるウェブサイトの会員制サービス。

※SDGs該当項目:

- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 12 つくる責任つかう責任
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

### (3) 商業・観光を振興する

## ① 商業・サービス業の振興



### 基本方針

にぎわいのあるまちをめざし、中心市街地の活性化をはじめ、市内の小売業の振興を促進するとともに、流通機能の充実を図ります。

### 施策の方向性(現状と課題)

#### ● 商業・サービス業の活性化

中心市街地においては、加古川中央市民病院の開院や市街地開発事業の進展にあわせ、飲食店が増加するなど、にぎわいの創出が図られています。

しかしながら、依然として空き店舗が残る中、本市全体では、小売業の販売面積、販売額が減少傾向にあります。

そのため、空き店舗など資産の有効活用や新規出店、起業者の育成などを図ることで、商業・サービス業の活性化を促進する必要があります。

#### ● 流通機能の充実

流通を取り巻く環境が大きく変化する中、本市の流通の一翼を担う食肉センターについても取扱量が減少傾向にあり、活性化に向けた取組が求められています。また、公設地方卸売市場については廃止することとしており、新たな流通機能のあり方について検討する必要があります。



ベルデモール商店街

## ② 観光の振興



### ※SDGs該当項目:

- 8 働きがいも経済成長も
- 12 つくる責任つかう責任
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

### 基本方針

観光による交流人口<sup>※</sup>の増加と地域の活性化をめざし、さらなる食の観光化を推進するなど資源を有効に活用するとともに、広域連携の強化や効果的かつ魅力的な情報発信を行うことで、誘客促進に努めます。

### 施策の方向性(現状と課題)

#### ● 観光資源の有効活用

本市は歴史資源や豊かな自然をはじめとした観光コンテンツを有しているものの、観光客数は横ばいの状況であることから、加古川観光協会と連携した効果的な情報発信に加え、新たな観光資源の発掘及び整備が必要です。

#### ● 食の観光化の推進

かつめしに加え、新たなご当地グルメとしてギョツとメシ<sup>※</sup>やおくるみおやつ<sup>※</sup>を開発するとともに、恵幸川鍋<sup>※</sup>を含めた本市独自の食で観光PRを図っています。

今後も、認知度を向上させるなど、さらなる誘客につながる取組が必要です。

#### ● 広域的な観光の推進

近隣市町をはじめ、播磨圏域連携中枢都市圏の構成市町との情報共有や連携体制の構築を図り、効果的な誘客の促進や、広域的な観光ネットワークを充実させることが必要です。

### ※交流人口:

定住人口(居住者)とは異なり、通勤、通学、文化、スポーツ、買い物、観光など人々の交流により、地域の活性化に結びつく人々のこと。

### ※ギョツとメシ:

味噌に漬けた牛肉を使用したご当地グルメ。

### ※おくるみおやつ:

高松味噌、岡田本家の地酒や酒粕、果物、はちみつなど加古川産の食材を使用し、「包む」をテーマにしたご当地スイーツ。

### ※恵幸川鍋

#### (えこがわなべ):

地元食材(高松味噌、岡田本家の酒粕、旬の野菜など)の恵みでみんなを幸せにする、加古川市のご当地鍋。



かつめし

